

弘前藩日記目録

(二十四)

弘前藩政史研究会

(天和二年九月大)

十一乙卯日 曇 夜雨

1. 初連書儀一、今別より出来、早速江戸へ應歸る。
2. 右を親形御にて青森へ
3. 御掛鶴一、吉内諸山より
4. 山鹿甚五左江内(奉行)病氣の御見舞の参附江戸へ
5. 客産敷に於て陣設紙格を申付けて
6. 湯治御許可(四)
7. 青森、下磯横堤、目付で申渡す

十二丙辰日 晴

1. 須崎より龍崎、藩主本日帰城の由
2. 江戸へ飛脚、
3. 庭物の後室、主日廿九日男子出産の由
4. 甚五左江内へ御自筆の御書並串蛇一箱進めた由
5. 庭物御後室へ御自筆の御文と經一箱進めた由
6. 藩士四人、藩政の折御目見に出るよう申渡す
7. 藩政藩主帰城、城代將監以下出席、左右江内と対面、以下御目見
8. 右御目見後、源津安部江江内を召出し朝鮮人表朝の折老中方左の機嫌窺の御書讀取次才罷登るよう仰渡す
9. 浅虫御供の面々へ休息三日仰付けける
10. 安部江江内へ御書

十三丁巳日 曇 雨

1. 龍利支丹御証文明日の飛脚にて藩政事、龍利支丹御目付坂本を江内佐様へ御書を渡し御証文を置す
2. 越前の海士、五軒にても十軒にても引越候様には可く、此兵隊人へ申渡す
3. 4. 明日津輕庭物百々日法事につぎ白銀十枚、油布守入夫持参、奥寺へ藩主より法事仰付候由申渡す、藩番等申渡す
5. 田山殿江江内を鰯ヶ沢へ遣し、巡見使衆船と同じ

指渡し、今晚中に江戸へ發足す

辰刻浪崎藩駕、即從新道より徳田町御殿前石町土手町御留屋伊央江前坂之上寺町へ御通り長町新伊國屋戎右江内角より田村郷江江内前台銀町大通町龜甲町西之北北御内、御入、郷佐江江内屋敷司より土居殿御通水村を介前より土橋至御入、

12. 13. 御機嫌鏡のため警戒、御内着座、番番等(六)頃夕食後、久置院へ御出

14. 今晚夕御膳料理小川金太夫仕候、殊の外出来につぎおしかり、御意の趣、伝江江内、金太夫に申渡す、以下、藩奉行、板の間迄由渡す

船を一艘準備を申渡す 6. □□四郎兵衛家来

の香の欠落仕送るように申付けすべし勘野を子細に承る可事之御奉行に申渡す 7. 明日十四日長勝寺へ御参代 8. 明日の眞屋寺に於ての留物の法事へ使者を自へ任付 9. 江戸より飛脚、八朔の御聖参 10. 萬士思明渡の勤務について

11. 連二日 大坂より参上ぐ 12. 江戸へ飛脚

十二日午日 参 附

1. 長勝寺へ御参代 2. 萬壽寺法事相済む 3. 本

町より飛脚にて前より二番渡城参 4. 赴役は全二

番御参せしむ

十三日午日 参 附

1. 長勝寺へ御参代 2. 萬壽寺法事相済む 3. 本

町より飛脚にて前より二番渡城参 4. 赴役は全二

番御参せしむ

十六日午日 参 附

告 4. 又昌院へ使者 5. 明日は東照宮の祭日

に付き浪番 6. 御王院の去年の秋松代につき仰

渡す 7. 車内内方番所、備を総図の図りにすま

よう御渡す 8. 龍元七右衛門龍堂立したき由詰

料あり、番付の通り許可 9. 八朔の御参書受領

の飛脚明日江戸へ

十七日午日 参 附

1. 長勝寺より飛脚御、参事到着の由 2. 湯の御許

可 3. 連軍行死に、御役の竹森助之丞御許

4. 龍元御、参事色を派したる由、参事色を派したる由

5. 参事色を派したる由、参事色を派したる由

6. 参事色を派したる由、参事色を派したる由

7. 参事色を派したる由、参事色を派したる由

之門度日。方欲集國力以全郭登也。不意也。摩牛

三入の申渡り
冬冬後後
冬冬
冬冬

の御御面口 幸庵、泰義に帰城の使者

川崎よりお供の面々に三日の休息を与う

廿二酉寅日 晴

1. 鷹師より報告

2. 重傷の祝儀白銀三枚、大芋賑

へ、明日使者にて

3. 區物御粉堂平産、祝儀白

銀三枚、積有一連

4. 明眠の祝儀の料理、二汁

五菜、相伴、玄蕃、大芋、松田五郎左江内に料理

下さる由 5. 本丸作事につき家中手廻り以上に

人足を割死てる 6. 樋口江内の作事、昔に同モ

取いので地形だけで役事は未春に 7. 本丸の作

事に町人足割不足につき家中人足二十人宛

百三々条 大芋を通じて、家中に申渡す

8. 弘前より警備への御用請ね、廿四日より下すにの

ぎ、名組より、足軽十人、鷹牛与右江内の所に越

申可き由 9. 江内へ駒改めの御御計定所にて登

御

廿三丁卯日 晴

1. 2. 湯治願許可 (二)

3. 由摩一居御覽

4. 幸屋

職人を仰付けける 5. 下破つ様見人を任命

6. 江戸台所荷物運送のための弘前より警備正の馬廻

宛 7. 来年四月の参勤の奉書到着 家臣登城

8. 来る廿六日の早参へ能く候御用を告る 江戸見

津杉出御後室皇子平産、御祝儀の料理 (四)

14. 進藤庄兵江青森より罷上り御見

15. 求春参府に因する飛脚への用状平就相渡す

廿四戌辰日 晴

1. 御奉書御請の飛脚本日登す

2. 相馬番八六十一

にて頓死

3. 岩木川番切出来上る

4. 5. 廣出

赤上り申立

6. 進藤庄兵江、駒改の旨申渡す

7. 右の御札

8. 柱々駒改の覽

廿五日巳日 晴

1. 2. 報恩寺へ参 (二)

3. 若御覽出来申上る

4. 枝木結松人の町人七人に扶持を下さる

5. 北田

助大主母零女、庄内に罷歸廣出を申産す

6. 幸屋

の場所五掌形、派廿四日出来上る

7. 湯治願許可

8. 江戸の鷹殺障子産子鑑覽戸立て申付けける

9. 湯治

願許可 (二)

廿六庚午日 曇 雨

1. 2. 3. 平日の御儀の覽 (二)

4. 湯治願許可

5. 泰義を御用人に申置罷歸

廿七辛未日 曇 雨

1. 鷹牛甚右江内、一町御植之進へ詰所御付ける

2. 江戸詰の者の今夜下向した者の物成金は江戸渡し

てあるが、一部を当用で渡し、残りは江戸で、以

後このようにする由

3. 江戸へ飛脚